

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→2017年度版・2018年度版 p. 4～5
- ・通信教育部カレンダー
→（3月）2017年度版 p. 28～29 （4、5月）2018年度版 p. 6～9
- ・演習・実習科目関連締切等
（社福）→2017年度版 p. 38～41 2018年度版 p. 47～50
（精保）→2017年度版 p. 42～44 2018年度版 p. 51～53

2018年4月以降の変更・留意点

●全ての学生の方へ【重要】

- ・スクーリング受講申込において、ハガキ→用紙に変更となります。
- ・スクーリングと科目終了試験の成績通知は、受講・受験した方に対する履修状況票の送付をもって行います（年6回。『試験・スクーリング情報ブック2018』1部カレンダー参照）。

●2017年度以前入学の方へ

『試験・スクーリング情報ブック2018』 p. 30～44で必ずご確認ください。

3 / 26 ～ 5 / 27 の追加・変更点

●春期Ⅱスクーリング受講料納入期限

（変更前）4 / 4(水)→（変更後）4 / 9(月)

●「基礎演習」（4 / 28・29仙台）スクーリング会場

（変更前）仙台駅東口キャンパス→（変更後）国見キャンパス

ご卒業おめでとうございます

通信教育部長・教授 寺下 明

卒業のお祝い

東北福祉大学通信教育部を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの多くは、仕事を持ちながら、あるいは、家庭で子育てや家族の介護をしながら、通信教育の課程で学んだのではないのでしょうか。単位を修得するために、つねに、レポートを書き、科目修了試験を受け、スクーリングに通われたことでしょう。

大学通信教育の課程を卒業するのは、並大抵ではなかったことと思います。皆さんの強い意志と、これまでのご努力に心から敬意を表します。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族やご友人、職場の方々に対し、心より御礼を申し上げます。

卒業の成果

卒業の卒は、学業を卒える（終える）ということです。新たな生活のための節目として、一つの区切りを終えるという意味があります。しかし、荀子の「周公卒業」を読むと、単に何かを終えたということではなく、ことを成し遂げ、業績を挙げたということにあるようです。卒業するということは、本来の意味に照らすと、単に、所定の単位を修得したということだけでなく、その間に一定の成果を挙げたことを指しているといえます。

卒業によって得られた本当の成果は、目に見、手に取ることのできない自らの知性と精神にあり、それは形あるものよりもはるかに大きなものであることを確信しております。ですから、卒業式は、大学で学位記を受け

取る儀式や人生の一区切りとしての式ではなく、皆さんが大学通信教育を通して得た成果を讃えるための式典であると思います。

「行学一如」

本学は、仏教の教えである「行学一如」を建学の精神とし、実践力に富んだ人材の養成を目的としてきました。学業も実践も根本は一つであるという「行学一如」の教えは、学問は実際に活用されてこそ意味をもつものであり、学んだ知識や理論は、経験や実践においてつねに検証され、修正され、より確かなものとなっていくということでもあります。

卒業される皆さんは、これをもって本学での学びは終了することになりますが、もちろん人生における学びが終わるわけではありません。社会の変化は目まぐるしく、課題先進国ともいわれる我が国においては、これからも家庭や職場で、さまざまな問題や試練に直面することになるでしょう。

大きな変化と多様性の時代には、ますます学問が重要になります。アメリカの教育学者J. デューイは、「学習は経験の再構成、再構築である」と言っています。経験を通じて知識が創造され、修正される過程だとしたら、これからの学びは、実践や経験をその資源とすべきです。皆さんには、本学で学んだ学問の基礎の上に立って、生涯学習し続けてほしいと思います。

「自利利他円満」

今日、山積する諸問題に共通するのは、難しい問題を先送りしてきたことの結果です。安定成長していた時代、学校教育では正解が1つしかない問題が与えられ、正確な知識を駆使して早く解くための能力が鍛えられてきました。しかし、今は、わたしたちの価値観や生き方の多様性が広が

り、単純に答えが出ないものばかりです。

それでも、わたしたちは未来に向けて、新しい考え方や答えを探し出さなければなりません。そこで、重要なのは、世界と戦うのではなく、世界と語ることです。文化も考え方も身体能力も違う人たちと、共に問題を解決するためには、コミュニケーション力が欠かせないからです。ディベートや討論という相手を言い負かす能力ではなく、対話（ダイアログ 智恵を分かち合う）の能力が必要となってきます。

これと近い意味にあるのが、本学の「自利利他円満」という教育理念です。東日本大震災の経験によって、この言葉の意味は一層大切なものとなりました。「自利」の営みと、「利多」という他者を意識した営みとは、原理的に対立するものではありません。現代社会では、文化や宗教、国境を越え、人々と「共に生きる」こと、また、自然や生態系を含む環境との「共生」ということが重要な課題です。本学では、わたしたちそれぞれが持てる力を出し合い、支え合いながら、共に生きる社会を築きあげることを目標にしています。

新たな出発

江戸時代、昌平坂学問所のカリスマ講師で、佐藤一斉という学者が次のように書きしるしています（『言志四録』）。

「少にして学べば、すなわち、壮にして為すことあり。壮にして学べば、すなわち、老にして衰えず。老いて学べば、すなわち、死して朽ちず。」

古典的生涯学習論といえますが、ここでは、学問によって自分を磨くことが期待されています。そして、学びは青春期だけでなく、もっと長いスパンで考えられているという点で、興味深く、正しいような気がします。

本学通信教育部は、これからも自立した一人の人間として、力強く生きていくための総合的な力を培う学修の場を提供し、生涯学習社会の実現に

向けた取り組みを積極的に推進してまいります。卒業される皆さんが、通信教育の課程で学び、身に付けたことは、今後皆さんが人生を生き抜くうえで、大きな自信となるはずです。通信教育部は、皆さんを誇りに思い、それぞれの立場で活躍されることを期待しております。